

MiTA

2011/12/19

Vol. **43**

水島ポートニュース

Mizushima International Trade Association



特 集

総合特区指定申請をした 岡山県の産業未来図

～総合特区制度指定への申請について～

Contents

- ・水島港見学会について
- ・MITA総会報告
- ・ポートセールスの実施について
- ・MITA要望活動報告
- ・水島港湾事務所のご紹介
- ・国際バルク戦略港湾への選定について
- ・企業立地セミナーの開催について

総合特区指定申請をした 岡山県の産業未来図

産業の国際競争力の強化及び地域の活性化に関する施策を総合的かつ集中的に推進する施策として平成23年8月1日に総合特別区域法が施行された。総合特別区域（総合特区）制度が創設されたことに伴い、岡山県は県内製造品出荷額等の半分を占める水島コンビナートについて、9月28日、3つの戦略で構成される「ハイパー&グリーンイノベーション水島コンビナート総合特区」として、地域活性化総合特区の指定申請を行った。

そこで、総合特区構想を作成した水島コンビナート発展推進協議会の行政・企業メンバーからその効果や意義についてお話を伺った。

総合特区の申請

なぜ「水島コンビナート」の取組を総合特区として申請したのか、岡山県総合政策局政策推進課長の矢吹周平さんに聞いてみた。

「水島コンビナートには、他のコンビ

ナートや工業地域と比較して3つの特徴があります。その一つ目として「コンパクトな範囲に石油・化学・鉄鋼・自動車・電力といった多業種が集積していることで、企業間による高度な連携の取組を行うことが可能です。2つ目として石油コンビナート高度統合運営技術研究組合（RING）^①が経済産業省の支援を受けてコンビナートの競争力を高めるために事業を実施し、石油分野と化学分野の間で日本最先端の非常に効率のよい生産システムを構築しています。3つ目としては国の国際ハルク戦略港湾にも選定されており、国の重点的な投資が見込まれています。



① 平成12年5月、石油産業及び化学産業の20社で設立。コンビナートの国際競争力強化を目指して「コンビナート・ルネサンス事業」を展開し、現在では組合員数も27社に増加。

このような特徴や取組みにより、水島は国内で最も企業間連携の実績があり、多くのノウハウが蓄積されている地域といえます。そして今後も、さらに高度な連携を進めて行きますので、世界と戦えるわが国のモデルコンビナートを作っていく上で、非常に大きなアドバンテージを持っています。

これらの特徴を持つ水島コンビナートは、規制緩和と国の重点的な投資によって生産性の向上が図られるという総合特区制度の趣旨にジャストフィットするものと考えて申請しました^②。



岡山県
総合政策局政策推進課長
矢吹周平さん

戦略Ⅰ バーチャル・ワン・カンパニーの実現^③

バーチャル・ワン・カンパニーの狙いを、岡山県産業労働部産業振興課長の小寺紀孝さんは、「ボイラーなどのユーザーリテイヤー^④を大規模化、高効率化し、共同で使用することでコスト削減



岡山県
産業労働部産業振興課長
小寺紀孝さん

JX日鉱日石エネルギー株式会社水島製油所と省エネを図ることができそうです。しかし、現在は規制があり、共同で使用することが難しいため、この規制を緩めて共同使用しやすくするのを目的としています^⑤と説明する。

また、原油から化学製品を作るときにオフガス^⑥ができ、それを自社で燃料などとして使っている。そして、同じ企業の工場間などでは互いに融通しているが、他の企業へは規制があるため融通が難しい。企業によってはオフガスが余る企業と、足りない企業があり、余ったオフガスを融通し合えばコスト削減につながるのだ。そこで、水島コンビナートを二つの企業とみなして互いに融通出来るようにすることを目的としているという。

JX日鉱日石エネルギー株式会社水島製油所の笹木敏行さん、岩永隆久さんは、すでに今まで企業同士が連携して色々な物を融通してきたが、電気やガスなどのインフラは手つかずだっ



グループ
担当マネージャー
岩永隆久さん



計画グループ
担当シニアマネージャー
笹木敏行さん

たという。その理由として「企業では費用対効果が求められるが、インフラは直接利益に結びつかないので、国の支援なしでは難しかったからなどの理由がある。今回は国の支援も受けられるので最適である」と話す。

戦略Ⅱ 水島港ハイパーロジスティックス港湾戦略^⑤

水島港ハイパーロジスティックス港湾戦略の必要性について岡山県土木部港湾課長の大家哲也さんは「現在、水島港付近では大型船舶が錨泊可能な錨泊地^⑥が不足しており、水島港から離れた場所に錨泊しなければなりません。その不便を解消するため錨泊地の利用基準を緩和して、水島港付近において錨泊できる船舶を増やすことが必要です。また、水島港の2カ所で荷役をする場合、1カ所目の荷役終了後、2カ所目の荷役をするまでに錨泊地の問題や各種規制により、24時間以上経過してから再入港せざるを得ない場合にも新たにとん税や特別とん税^⑦がかかります。これでは無駄なコストがかかってしまいます。再入港時のとん税や特別とん税を免除できれば、その分のコス



岡山県
土木部港湾課長
大家哲也さん

⑥ 船が錨(いかり)を下して停泊する場所

⑦ 外国の貿易船が日本の開港に入港した際に払う租税

④ 製品の製造過程で発生する水素、メタン、エタンなどを含む副生ガス

⑤ 水島港ハイパーロジスティックス港湾戦略とは国際ハルク戦略港湾による航路増深等の事業に加え、水島港を利用する船舶を対象とした規制緩和を進めることである。これにより、ハルク船舶にとどまらずコンテナ船なども含め水島港を利用する全ての大型船舶が水島港の持つ高い港湾機能を最大限活用可能となる。

② バーチャル・ワン・カンパニーとは複数企業を1社とみなして高度な企業間連携を行うことによりコンビナートのコスト競争力強化・高付加価値化を目指すことである。

③ 工場の生産設備を稼働させる電気、蒸気などの供給設備

特区を活かすために



などを協議するための「国と地方の協議会」が総合特区ごとに設置され、地域の実情や必要性に応じた規制の特例措置や支援措置が講じられることになるという。

今後の対応

矢吹課長は、「総合特区制度については、指定数が地域活性化総合特区で20地域程度と非常に少ないです。既に77地域が申請し、引き続き指定申請を受け付けるとのことなので、今後とも全国の申請の状況をにらみつつ、県の特性や優位性を生かせるような特区を検討・提案することで、県内産業の活性化を図っていききたいと考えています」と語った。

また、三菱化学株式会社の皆さんは「現在はコンビナートで作った材料を水島コンビナートで製品していくとい

和は、当社の原料船だけでなく原油タンカーにも効果があるので、水島港全体の競争力の向上につながる」と、この戦略に期待を寄せる。

戦略Ⅲ グリーンイノベーション コンビナート戦略^{注8}

グリーンイノベーション戦略の必要性について、岡山県産業労働部産業振興課長の小寺紀孝さんは「海外のコンビナートと勝負した場合は、価格で競争する製品ばかり生産しては生き残っていきません。そこで日本の技術力を生かした高機能・高付加価値な環境・新エネルギー分野^{注9}の製品など、他の国で作れないものを作っ



三菱化学株式会社水島事業所
企画管理部長
坂下弘之 さん



企画管理部
戦略企画グループ
グループマネジャー
藤巻精一 さん



総務部総務グループ
グループマネジャー
村上幸治 さん

工場集積が不十分。例えば、基礎原材料などからの製品化などは、東日本に多くの企業が集積している。それらを西日本の拠点として、水島コンビナート周辺に衛星的に集積していくという必要がある。それが、県を強くしていくのに重要である」と指摘している。

岡山県に期待する1点

このように魅力的な特区を活かすため県に期待することも多い。JX日鉱日石エネルギー株式会社の皆さんは「規制緩和を行い、効率的な企業運営ができるようになれば、コンビナート企業を中心に活性化し、ひいては岡山県全体が活性化していくと思うので、今回の規制緩和だけでなく、他の規制緩和についても国に働き掛けてほしい。そして今後も水島コンビナートに必要な規制緩和などについて検討する場を維持してほしい」と要望する。

また、JFEスチール株式会社西日本製鉄所の皆さんによれば、岡山県とコンビナート企業は非常にいい関係ができてきているという。例えば、コンビナート企業が利用する海域に土砂がたまる、定期的



三菱化学株式会社の坂下さんは「もちろん構想が通ることが一番大事だが、今回の構想作成に向けての検討会により、とても良い連携ができたことと、経済産業省とのパイプができたので非常に有意義であったと感じており、今後とも連携して西日本最大の水島コンビナートを、より強固なものにしていきたい」と語った。こうした人的ネットワークの形成も今後の水島コンビナートにとっては大きな財産になるだろう。

ていく必要があります。それらを作ることが国内のコンビナートが生き残っていく道だと考えています」と語った。環境・新エネルギー分野の製品などの研究開発から量産まで、一連の機能を持ったマザー工場としての役割を果たせる企業を集積していくというのだ。

申請後の状況

矢吹課長は次のように説明する。「現在は、国において指定に向けた検討が行われているところですが、専門家による書面審査では、『生産インフラの維持、既存技術の発展などわが国の製造業が抱える本質的課題につながる問題に取り組んだもの。本事業の実現が我が国の製造業の持続的発展に寄与することは相応に高いと期待される』、などの高い評価を頂いています」。

仮に水島コンビナートが地域活性化総合特区として指定された場合、その後は、国と地方で政策課題の解決の方向性を共有するために「地域活性化方針」が策定される。そして、規制の特例措置や税制・財政上の支援措置にそれを取り除く浚渫^{しよせつ}工事というものが必要になってくる。浚渫を行う時に、他県のコンビナートでは莫大な工事費用を企業が全額負担しなくてはならないケースもあるという。それに対し、「岡山県は、費用の一部を負担して浚渫工事を実施してくれる場合があるため企業の負担軽減になる。このように岡山県はコンビナートを気にかけてくれており、なにかあれば気軽に相談できるようないい関係ができています」とのことである。

特区申請までのプロセスを振り返り

今回の取材の協力者

- 岡山県総合政策局政策推進課長 矢吹周平 さん
- 岡山県産業労働部産業振興課長 小寺紀孝 さん
- 岡山県土木部港湾課長 大塚哲也 さん

- JX日鉱日石エネルギー株式会社 水島製油所 計画グループ 担当シニアマネージャー 笹木敏行 さん
- 三菱化学株式会社水島事業所 企画管理部長 坂下弘之 さん
- 三菱化学株式会社水島事業所 企画管理部 戦略企画グループ マネージャー 藤巻精一 さん
- 三菱化学株式会社水島事業所 総務部総務グループ マネージャー 村上幸治 さん

- JFEスチール株式会社 西日本製鉄所 総務部総務室 室長 二木岳彦 さん
- JFEスチール株式会社 西日本製鉄所 総務部総務室 主任部員 並河伸介 さん

注9 電気自動車・LEDやリチウムイオン電池の材料など

注8 グリーンイノベーションコンビナート戦略とはコンビナート企業がタイムリーに高機能・高付加価値製品の技術開発や量産化などが実施できる環境整備を行うための構想。高機能・高付加価値製品を生産する競争力のある産業を集積させ、水島地域が西日本の重要生産拠点として今後も持続的に発展していくことを目指すものである。

MITA玉島ハーバーアイランドと水島コンビナートの見学会

「最先端のものづくりと水島港の関わり」について理解を深める水島港見学会が、今年も夏休み期間中の8月23日に開かれました。小学校4年生から大人まで45人が参加。玉島ハーバーアイランドの水島港国際コンテナターミナルや水島コンビナートのJX日鉱日石エネルギー株式会社が製造所を見学し、わたしたちの身近にある西日本最大のコンビナートやそのコンビナートを支える国際拠点港湾など地域の魅力を再発見しました。



玉島ハーバーアイランド
水島港国際コンテナターミナル

日本とアジアを結ぶ水島港国際コンテナターミナルを運営する水島港国際物流センター(株)を見学。水島港の役割や荷役作業の説明を聞いた後は、ハーバーアイランドの全景を一望できる屋上へ。ちょうど2隻のコンテナ船が入航しており、ガントリークレーンでの積み下ろし作業やストラドルキャリアでの移動を間近で見ることができ、わたしたちの身近にある「国際物流拠点」に驚いている様子でした。



水島コンビナート
JX日鉱日石エネルギー(株)水島製油所

水島コンビナートで今年創業50年を迎える、日本最大の原油処理能力を誇る水島製油所のA工場を見学。製油所の仕事について説明を受けた後、バス2台で構内へ。蒸留塔や原油タンク、原油タンカー、縦横に伸びるパイプラインは迫力でした。



参加小学生・中学生の感想

水島ハーバーアイランドは、コンテナの取りあつかい量が多いことを、初めて知りました。ENEOSの方はガスタンクがたくさんありました。ガソリンなどもここから来ているのかと思うと、ENEOSのすごさが良く分かりました。
(小5年生 近藤 翠さん)

入口のところに、原油、レギュラー、軽油と分けて展示してあったので、ひと目で色や匂いなどがとてもよく分かりました。パンフレットでは原油をこまかく分けていくと、レギュラー、ジェットエンジン、軽油などの19個に分けられますが、私たちの生活になくてはならないもので、どれも使い道があり、むだがないことが分かりました。
(中1年生 奥山 加奈子さん)

参加保護者の感想

水島港「ローカルなイメージ」だったけど、世界とつながっている港なんだということがよく分かりました。日常的に貨物船が入港して、コンテナの積み下ろしをしているのに、感心しました。エネオスは、子供に理解しやすいDVDの説明や、工場内の見学で、普段見ることのできない所を見学できてよかったです。安全に対するいろいろな工夫がよくわかり驚きました。
(継山 清美さん)

日頃、一般道や列車でコンテナやタンクローリー車等を見ることはあっても、輸入から出荷までの工程の説明を聞くこともなければ見ることもないので、今回この見学会に参加し、私たちの生活になくてはならない水島港を知ることができ、大変勉強になりました。

子ども達も原油からペットボトルや衣服などが作られていることや原油は輸入に頼るしかない等を初めて知り、これからの生活の中でも意識してくれることと思います。今日はラッキーなことに、なかなか見ることの出来ない、原油の輸入船を見学することも出来、とてもよい思い出となりました。『船でつかう！』と、子ども達の興奮した顔は私も忘れることが出来ません。
(砂田 亜希子さん)

短時間で、いろいろな所を(日頃は見学出来ない所)見学させてもらって、すごく実のある体験ができたと思います。私自身コンビナートのことを知る機会なく過(こ)してきたもので、コンテナをどのように運んでいるのかをみて感動してしまいました。そして、水島が国内においてすばらしい位置(役割)にあるかを知り、県民として誇りに思いました。上の娘は「いろいろなことを知れてよかったよ。船の大きさとかわかった。楽しかった。」「下の娘は、「エネオスがどんなことをしているのかよくわかった。ガソリンの値段には、税金がたくさん含まれていることがわかった。船で運ぶほうが、環境によいこともわかった。コンビナートの仕事をしている人は、12時間も働いていて、たいへんだな」と思ったよ。」「やはり、子どもには何でも体験させてやるべきだなあ」と感じました。
(中原 直美さん)

MITA総会報告

6月6日、第14回MITA総会をメルパルク岡山で開催し、総会には来賓、会員合わせて110名が出席しました。冒頭、MITA会長代理として壇上に立った古矢岡山県副知事は、水島港が国際バルク戦略港湾へ選定されたことを報告、計画の早期実現に向け、官民一体となって全力で取り組んでいくとともに、新高梁川橋梁、水深12m岸壁等、水島港のさらなる機能強化についても国際競争力強化のため、一層の事業進捗を図る必要があると挨拶しました。

総会では、MITA副会長である岡山商工会議所連合会の岡崎会長が議長を務め、平成23年度役員、顧問の変更、平成22年度事業報告及び収支決算について、平成23年度事業計画案及び予算案についていずれも承認されました。

総会後、財団法人国際臨海開発研究センター調査役の館野美久(たてのよしひさ)氏に「海運におけるリスク管理」と題して、港湾物流の側面から、東日本大震災をはじめ、過去の災害や事故等の事例やその対応、最新のリスク管理等について講演いただきました。



開会の挨拶をする古矢副知事

台湾台北市・高雄市で海外ポートセールスを実施

平成23年7月21日から23日までの日程で、岡山県の平出土木部長を団長に、MITAの14名で台湾台北市及び高雄市でポートセールスを実施しました。

台北市では、水島港とベトナム・台湾を結ぶ航路を15年間運航しているワンハイラインズ本社を訪問し、水島港の二層の利用促進をお願いしました。また、近年急速に発展している台北港を管理運営している台北港コンテナターミナル会社及び台湾最大の港湾である高雄港で自社ターミナルを管理運営しているワンハイラインズ高雄港ターミナルを訪問し、最新の港湾のあり方や運営方法について意見交換を行いました。

また、平成23年8月21日、MITA会長である石井知事等が、台湾で開催された「岡山観光説明会」に合わせて、高雄港の視察と高雄市の経済団体との意見交換会を行いました。



MITA訪問団長と張法偉碼頭事業部総経理

MITA要望活動を実施

MITAでは国土交通省に対し、平成23年度の要望活動を実施しました。9月22日、熊耳要望団長(JFEスチール株式会社西日本製鉄所倉敷地区総務部長)をはじめとした13名のMITA要望団は、国土交通省中国地方整備局の高田港湾空港部長他4名の幹部の方に出席いただき要望活動を実施しました。高田港湾空港部長からは、港湾事業は、産業界と一体となって進めていくことが重要であり、MITAのような組織は全国的にも少なく貴重、国際バルク戦略港湾で、バルクの品目2種類で選ばれた港湾は水島港だけであり、それだけ重要な港だと認識してもらったということ、今後もMITAから声を出して欲しい、とのコメントがありました。

9月29日、同じく熊耳要望団長をはじめとした15名のMITA要望団は、国土交通省本省への要望活動を実施し、林田大臣官房技術総括審議官、加藤港湾局官房審議官、重田大臣官房会計課長、木村大臣官房会計課企画官へそれぞれ直接要望書を手渡し、水島港の機能強化と国際バルク戦略港湾の早期事業化について要望しました。

この後、衆議院、参議院議員会館において、MITA顧問である15名の国会議員の方に対し、要望内容を伝え、今後のMITAに対する支援をお願いしました。今後もMITAでは、水島港のさらなる発展のため要望活動を積極的に実施していきます。



中国地方整備局において要望中のMITA要望団

水島港湾事務所のご紹介



水島清港会と連携した清掃活動



奥山所長(左)と530(ゴミゼロ)隊の陶山代表(右)

平成23年4月から備中県民局水島港湾事務所の所長になりました奥山です。よろしくお願いたします。

水島港湾事務所は、岡山県倉敷市水島福崎町に位置し、総務課、維持管理課、企画審査課、工務課で構成されています。

水島港は、昨年(平成22年)外貿コンテナ取扱量は過去最高値を記録し、今年(平成23年)5月には、「国際バルク戦略港湾」に選定され意気軒昂です。さらに、玉島西航路の着工準備、玉島ハーバーアイランドの拡張工事、同6号埠頭耐震強化岸壁の整備も進め、11月にはMITAの二員として中国(福州市、廈門市、惠安県宗武)を訪問し、水島港の今後層の利用促進を訴え手応えを感じました。

しかし、水島港湾事務所の仕事はそういったものだけではありません。まずは海の上の安全です。「はやて、おおじま、せいこう」の三隻の船舶を所有し、油の流出事故対策、岸壁の損傷調査、船舶の航行に支障を来すゴミの回収など水域・航路施設の監視を厳しく行っています。

瀬戸内海を一望する下津井にある三百山の上に遠距離監視カメラ、AISレーダーを設置、国際海上VHF通信業務及び航行支援業務を行い、昼夜にわたり航行船舶の事故防止にあたっています。

また、きれいな町や海を残すことも忘れていません。今年度から「おかやまアタプト事業」の一環として、立地企業が「ハーバーアイランド530(ゴミゼロ)隊」を結成、臨港道路の清掃美化活動を実施。参加企業窓口には「構成団体表示プレート」を掲示し環境美化の啓発を行っています。水島港湾事務所も水島清港会と足並みを揃え港湾施設の清掃活動に余念がありません。

そして、地域要望の強い各海岸の台風・高潮対策事業、環境整備等に加え、水門・陸こうの保守点検や修繕業務を行い住民のみならず安全・安心にも貢献しています。

そのほかに、入港料・係船料の徴収業務、土地・建物(野積場・上屋等)の占用・使用許可をし、その収入金は、港湾行政に大変役立つています。

また、まだ紹介しきれませんが、引き続きMITAと連携しながら、水島港の発展に向けて、職員一同がんばっていきなさいと思います。

水島港の国際バルク戦略港湾への選定が決定!!

5月31日、水島港は国際バルク戦略港湾に穀物、鉄鉱石の2品目について選定されました。

2品目での選定は、全国で唯一であり、MITAをはじめとした官民を挙げての取り組みや、立地条件等水島港の優位性が改めて評価されました。8月末には、今後の事業方針を決める国際バルク戦略港湾育成プログラムを作成し国へ提出しました。今後、より具体的な事業内容を関係者間で協議・決定し、早期の事業化を目指していきます。

おかやま・企業立地セミナーの開催



10月19日、東京において、おかやま・企業立地セミナーが開催されました。

このセミナーは、日本全国の企業等に対し、玉島ハーバーアイランドなど岡山県への企業の立地を誘致するものであり、各地から300名の参加がありました。

セミナーでは、石井知事による岡山県を紹介するプレゼンテーションなどが行われ、水島港についても、整備中のコンテナターミナルやアジア諸国への外貿コンテナ航路、国際バルク戦略港湾への選定など、国際的な物流拠点であることをPRしました。

今号の表紙

水島港全体を捉えた航空写真です。水島港は一級河川高梁川を挟んで、東側がコンビナート企業が数多く立地する水島地区、西側が水島港国際コンテナターミナルや物流倉庫等が立地する玉島地区となります。新高梁川橋梁、水深12m耐震強化岸壁、国際バルク戦略港湾など多くのプロジェクトが進行中です。



玉島地区



水島地区